

ドイツ・アウクスブルク市の教育機関

江村 栞

1 はじめに

私は、大学で教育を学んでおり、訪問前からドイツの教育がどのようなものなのかに関心がありました。またドイツは環境先進国でもあるので、どのような環境教育が行われているのか、とりわけ幼稚園・小学校などの低年齢の段階での環境教育に興味がありました。

しかし、実際に現地の幼稚園・小学校を訪問したところ、環境教育だけでなく、実際に行かなければ気付かなかったようなユニークな特徴がたくさんありました。教育の現場を見ることで、反対に社会の様子を垣間見ることができ、発見がたくさんありました。今回のレポートでは、訪問先のこども園・小学校で実際に見たこと・聞いたことをもとに、それらの特徴や発見についてまとめたいと思います。

2 概要

【こども園】まず幼児教育について、今回訪問したのは比較的町中にあるこども園でした。0歳～6歳の子どもが在籍しており、年齢別にクラス分けをしない縦割り式でした。日本のように、みんなで一緒に何かをするという時間は少なく、子どもたちがそれぞれ何をするか各自で決めて、それを行うといった感じで、午前中はその個人のワークを、午後は外遊びといったスケジュールが組まれています。協調性よりも主体性を重んじているのが特徴的です。園内には、アートや音楽・運動などのテーマ別に部屋

が用意されており、子どもたちはそこで、各自で決めたやることを取り組むそうです。

【小学校】小学校は1年生から4年生まで、6歳～10歳の子どもが在籍しています。ドイツの教育制度には、日本のような6・3・3制ではなく、小学校で4年間過ごしたあと、中学校・職業実践学校・高校修了過程の3コースに分かれます。そのため、小学校の4年間というのは、これからの進路を決める上で非常に重要な意味を持つといえます。訪問先の小学校は、外国から来た生徒がアウクスブルク市内で最も多い小学校で、約20か国もの異なる文化的背景を持つ子どもたちがいます。校長先生のお話によると、教育方針としては、勉強を詰め込みすぎず、「子どもが子どもらしく過ごせること」を重視しているとのことでした。

3 多国籍な子どもたち

ドイツは移民の多い国で知られていますが、今回訪問したこども園・小学校も非常に多国籍な要素が色濃く、それに応じてどのような変化が生じているのか、また教育においてどのような工夫がなされているのかを伺いました。

【こども園】こども園の先生のお話によると、全園児のうち約8割がドイツ生まれの子どもではなく、ドイツ語を話せない親を持つ園児がいるそうです。そのため、学校で子どもがドイツ語を覚え、反対に子どもが親に言葉を教えるということもよくあるといえます。

【小学校】 上述したように、訪問先の小学校は、アウクスブルク市内で、外国から来た生徒が最も多い小学校であります。そのため、ドイツ語をあまり上手に話すことができない子どももあり、そういった子どもたちのために＋αで授業を行っています。また、就学前にドイツについて教える機会を設ける場合もあり、毎年70人前後が対象になるといいます。異なる文化的背景をお互いに持っていることもあり、生徒間のけんかもよくあるそうで、そのため、「思いやりの心を持つこと」「基本的な挨拶をすること」この2つの重要性を統一して子どもたちに伝えているそうです。

4 自然との触れ合い

訪問前から着目していた環境教育については、今回こども園・小学校ともに詳しく知ることは残念ながらできませんでした。しかし、今回訪問したこども園・小学校ともに、施設のつくりなど、自然を身近に感じられるような空間が形成されており、とても印象深かったです。

【こども園】 こども園の中は、木製の机や椅子など、木のぬくもりを感じられるものが多く用意されている印象を受けました。また、子どもたちが自由に図画工作をできるスペースがあるのですが、その天井がガラス窓になっており、室内にいても自然光を身近に感じられるような作りになっていました。園内に備え付けられているおもちゃも木製のものが多く、木材や木の実をそのままおもちゃとしておいているものもありました。そういった木材等を使って工作をすることもあるそうで、自然を色々な方法によって子どもたちが楽しめるように

工夫されていると感じました。また、実際には見ていませんが、先生のお話によると、こども園の近くに森があるそうで、その森にみんなで出かけるアクティビティも定期的に行われているそうです。



こども園・天井のガラス窓

【小学校】 小学校に関しては、具体的なことまでを知ることが今回はできなかったのですが、校舎の空間がとても開放的で、いい意味で屋外と屋内の境界線があまりないように感じました。校内の一角にある図書室の隣には屋外テラスが用意されており、天気良ければ、子どもたちはそこで本を自由に読んだり、映画を観たりするそうです。また、校内には所々吹き抜けがあり、そこから来る自然光がとても気持ちよく感じました。決して目に見えてわかるものではないですが、こういった細かな空間づくりが、子どもたちの日々の学校生活にいい影響を与えているのではないのかなと思いました。



こども園・自然のものを使ったおもちゃ①



こども園・自然のものを使ったおもちゃ②

5 働く親へのサポート

今回訪問したこども園・小学校には、共通して、働く親に向けたサポートが多々見られました。両親が共働きであったり、母子・父子家庭であったりする子どもの存在は日本にも共通することであり、考えさせられる部分がありました。

【こども園】訪問先のこども園は、朝の

6時半に開園しており、これは働く親のために早めに開園しているそうです。

【小学校】訪問先の小学校では、半日制(8時～12時)・全日制(8時～16時)の2種類の選択肢があるそうですが、働く親のために7時半開始でも場合によっては了承しているとのこと。また放課後も、日本のような学童保育が設けられており、その時間に子どもたちは宿題などをして過ごすそうです。(学童保育での宿題は義務ではないそうです。)

6 その他

【こども園】その他に印象に残っていることとして、絵本があります。園内にはたくさんの絵本が置かれていたのですが、その中には日本でもよく知られている絵本が数々ありました。また先生に最も人気の絵本を伺ったところ、その絵本も日本で有名なもので、言語や文化は違っても、ドイツと日本の子どもたちが同じ絵本を読んでいるということを知り、とても不思議な気持ちになりました。また、給食制度も充実しており、曜日ごとに決められたメニューがあるそうです。

【小学校】小学校で印象に残ったこととして、新1年生の行事があります。ドイツでは新1年生は入学するときに、両親から手作りのプレゼント袋を受け取るそうです。そのプレゼント袋の中には、お菓子とこれから使う筆記用具が詰め込まれており、子どもたちはそのプレゼント袋をもって、学校初日は登校するそうです。実物の写真は残念ながらありませんが、とてもかわいらしくデコレーションされており、緊張や不安が入り混じるであろう新1年生の登校初

目を、ワクワクしたものに彩るもののよう
に感じました。

7 おわりに

今回、このように現地のこども園・小学校に行けたことは、普通の個人的な旅行や留学では決してできないような、貴重な機会であったと思います。世界各国の教育制度については、現代であればインターネットなどで簡単に知ることもできますが、その場合、自分が焦点を当てた部分しか知ることができません。しかし、今回のように実際に訪問することで、以前から興味を持っていたものだけでなく、多国籍な学校の様子や働く親へのサポート体制など他要素も知ることができ、体系的に教育を捉えることができたと思います。とりわけ、今回の場合、こども園・小学校ともに自然光をうまく取り入れた開放的な空間づくりに非常に感銘を受けました。これまで教育というものを考えるとき、制度面ばかりに焦点を当てがちでしたが、子どもたちを取り巻く空間づくりというものも教育においていかに重要かを今回の訪問で認識するきっかけになりました。